



今日の小児治療指針 第16版

水口 雅, 市橋 光, 崎山 弘 総編集

● A5・頁 1032 2015年 09月

定価：本体 16,000 円＋税

[ISBN978-4-260-02084-8] 医学書院

小児科診療の第一線では、重症度・種類が多様な小児疾患に対応しなければならない。本書は小児科医が遭遇する疾患ごとに、その領域の第一線のエキスパートが、最新の治療法を具体的かつ実践的に、重要疾患の「治療のポイント」「専門医へのコンサルト」「患児・家族説明のポイント」「看護・コメディカルへの指導」などの情報を盛り込みながら解説してある。また、救急医療の項では、症候別・疾患別に鑑別法とともに治療法が記載してある。

検査や疼痛緩和のための鎮静法、治療手技や小児診療に必要な知識も漏れなく盛り込まれている。腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、精神疾患、心身医学的問題、思春期医療、骨・関節疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉・気管の疾患、小児歯科・口腔外科疾患など、特に他診療科と協力が必要な疾患では、必要に応じ「専門医へのコンサルト」という項目で明確に解説してある。そして付録や資料では小児薬剤投与方法、脳死判定と脳死下臓器提供、標準値、予防接種スケジュールなど小児科診療に必要な情報が添付されている。

本書は1970年の第1版から現在の第16版まで長い歴史を有し数年ごとに改訂されているが、今回も編集者の新しい企画が生かされた意欲的な書となっている。

編集には専門知識が豊富な大学教授と第一線での臨床経験が豊富な開業医が参加し、幅広い視野で行われている点も特徴である。

今版から小児医療の新しい問題「小児在宅医療」の章が新設され、訪問診療、在宅医療の要点が記載されている点は注目に値する。今後ますます必要性が増す医療分野で一層実用性が高い情報源となっていくと思われる。

各種疾患の治療法については広汎な情報が簡潔に集約されている。この情報の包括性は、初期・後期研修医、実地医家、救急診療に従事する一般小児科医はもちろん、種々の小児科専門分野の診療に従事するサブスペシャリストにも有用である。またプライマリ・ケア医、他科専門医が小児患者に接する場面でも大いに力を発揮するだろう。

小児科学の膨大な知識をすべて吸収し正確に記憶することは不可能に近い。それが多忙な小児科医にとって臨床の現場で知識を確認できるよう、コンパクトな一冊にまとめられている。治療に使用する薬剤は実地臨床に役立つよう商品名も記載されている。まさに日々の臨床時に手元に置いて参考にすべきマストハブの書であると推薦する。